

第2分科会 書くこと

生徒が主体的に学ぶ国語教室の創造 ～論理的に思考し表現するための学習指導の在り方～

1 研究のねらい

延岡地区の中学校国語・書写部会は、大規模校から小規模校と様々な17校で構成され、年3回と限られた部会の中、指導力向上に取り組んでいる。延岡地区の生徒たちの実態として、24年度に書くことに関してとったアンケート調査から、「文章を書くことが苦手である」「何を書いていいか分からない」といった結果が浮かび上がった。また「図表などを分析する文章が苦手である」「文章が出てこない」と生徒は考えていることが分かった。

そこで、国語・書写部会では、文章力のスキルアップを目指そうと、研究組織を「資料収集・分析班」と「授業研究・実践班」に分け、活動してきた。研究の内容として、論理的に思考し表現する力を育てることを研究テーマに置き、2つの柱を立てた。1つは語彙力・文章力スキルアップのための手立てを講じることであり、もう1つは、図表などを分析する文章の指導を工夫し、表現力の向上を図ることとした。

2 研究の内容

(1) 語彙力・文章力スキルアップのための手立て

① 各学校の語彙力・文章力スキルアップの実践例の共有化

- ・熟語の知識を増やすワークシートや、全教科で協力してもらう指導体制の実践例など、多角的に力をつけさせるものが集まり、指導法の参考とすることができた。
- ・「鍛える国語」…授業以外のあらゆる時間を用いて語彙力・文章力アップのための学校全体での取組
- ・国語科補強プリント

② 文章力スキルアップのための授業実践（東海中学校）

- ・題 材…東京書籍「書くー伝達（調べて考えたことを伝えよう～「言葉」のレポート～）」より
- ・ねらい…今年の研究テーマでもある「論理的に思考し表現する」ための授業
- ・工 夫…○文章構成の基本形である頭括型・尾括型・双括型の確認
○「なたもだ」の頭文字で親しませ、実際に活用できるように日常指導
○少人数の班活動を活用

(2) 図表などを分析する文章の指導の工夫

① 授業実践1（恒富中学校）

- ・題 材…「観察・分析して論じよう 批評文」（東京書籍）より
- ・ねらい…3種類のポスターを観察・分析し、それぞれのポスターが伝えている情報について意見を出し合う授業。

・題 材…○「根拠」と「理由」の違いの明確化。

○少人数の班活動を活用。

② 授業実践2（東海中学校）

・教 材…静岡県入試問題「若いうちにぜひやっておきたいこと」全国高校入試問題より

・ねらい…資料を見て分析する授業。

・工 夫…○「主観的な推測」と「客観的なデータ」を区別させる視点。

○事実やデータに基づく考察。

○必要に応じて形態の工夫。

3 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

① 書くことに関する実態調査を実施したことで、生徒が苦手と思っている分野について認識でき、取り組むべき問題点を焦点化できた。

② 論理的に文章を書く手立てについては、具体例を用いて日頃から少しずつ訓練していくと、生徒たちは抵抗感なく文章表現に取り組んでいけることが分かった。

③ 図表など、視覚に訴える教材を分析する観点については、小グループで考えさせ、分析ポイントに気づかせていく指導を通し、図表を分析する視点をもたせることができた。

(2) 今後の課題

① 授業の中で、論理的に文章を書かせるという指導内容は、時間の確保の工夫と継続指導が必要である。

② 文章構成については、「なたもだ」の定着を図る指導を広く提唱し、かつ継続していくとともに、「書き出しの文が浮かばない」という生徒の実態には、各教師はじめ今後市教研で取り組まなければならない。

③ 研究班の研究内容として、評価についても取り組む予定であったが、そこまで取り組むことができなかった。今後、評価の方法や観点についても検討していきたい。

〈参考文献〉

- ・「なたもだ」 宮川 俊彦 国語作文教育研究所
- ・「13歳からの論理的な文章のトレーニング」 小野田 博一 PHP研究所